

主催 福井高専創造教育開発センター
日時 5月18日（金）17:00～18:30
場所 福井高専メディアホール（図書館棟1階）
テーマ 「FDの現状と将来--高等教育機関での様々なFD活動の取り組み--」
講演者 京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代教授
参加者 約100名（高専のほか、仁愛大学、県立大など）

● 概要

講演プロットは、/なぜFDなのか？/これまでのFD/あらためて、FDとはなにか？/プロジェクト型FDという考え方/京大工学部とセンターの連携/本校のFDへの期待/の6つ。豊富な内容を1時間内でコンパクトにまとめて講演されたが、ここでは、その講演内容の概略を説明するのではなく、講演や議論のなかで印象に残ったことや、本学のFD活動で参考になると思われる点をまとめて、報告に代える。

● FDの義務化

入口にあたる入学者の多様化（全入時代等によってユニバーサル化）と、就職先などの出口の多様化が顕著になっている。出入口の多様化に対応するために高等教育のFDへの要請が高まっている。大学院は2007.4にFDが義務化された。今後は順次、学部そして高専へFDの義務化が進行する。

日本の大学教員は教育研修を受けていない。米国はTAで教育方法を豊富に経験。英国は、大学教員に対して、教育のための研修（30単位）が義務化されている。

● 授業アンケート

学生による授業アンケートは教員評価ではないし、授業評価のすべてでもない。

担当教員は、学生による授業アンケート、授業公開、自己の点検、試験結果等から自分の授業を評価する。その意味で、授業評価ではなく、授業アンケートというべきか。

どのような質問をするかはとても重要。工学部で実施している例を紹介。

学生への説明をきっちりした上で、アンケートを記名にしている。記名によって不真面目な回答が減る、1学生について4年間のアンケートを追跡して分析できる、成績等との関係を分析できる。

回答は4択（4 あてはまる、3 ややあてはまる、2 あまりあてはまらない、1 あてはまらない）

授業は、消費者調査とは違う。よって、授業への満足度を問わない。役立つか、知識や技能が実についたか等を問う。

「授業を通して重要と思った理論やキーワードは？」、「この授業が他の授業のなかで役立った場合、その授業名は？」、「この授業に関連する学習を進める場合、必要と思われる授業の内容は？」などを記述回答させている。

● 授業公開は検討会とセットで行う

教員の参観によって一つの授業を、複数の教員の目でみるができる。担当教員に見えない、学生の行動なども参観の教員から聞くことができる。

他者の見方と交流することによって新しい見方が生成される。

教員の交流はそれにも増して意義有。最近検討会を昼休みに行くことも多い→FD(=Food&Drink)

ちなみに、福井高専では、今学期から公開授業週間を設け、この期間では、教員が自由に参観できる。この方法は県大のFD部会でも議論したが、合意をとれず、踏み切れなかった。

● FDはトップダウンとボトムアップの調和が肝要。

トップダウンは、学部など部局単位での活動、文科省のGPなど大学全体の活動

ボトムアップは、プロジェクト型で進めると効果的。例えば、一つの科目を多数の先生によって同時開講する場合がある。本学の教養ゼミのようなもの。例えば、担当する複数の先生方が、その科目の目標、カリキュラムや授業方法、成績評価などについて議論し、一定の水準と均質性を保つ努力をする、といった形の教育改善（FD活動）は有効。京大工学部の基礎数学などで実践。

トップダウンとボトムアップを結合するための方策として、FDのコミュニティを形成していく。

以上、報告者の誤解や恣意的に理解した部分があるかもしれません。ご留意下さい。